

提案いただいた意見とその対応

計画全体に対する意見

	内容	対応または考え方	該当箇所
1	用途別計画よりも地区別計画を先行させた方がまとめやすいのではないか。 地区別では、人口減少という明確な現実があり、施設利用率が低いという実績からも計画を進めやすい。 用途別では、多機能化や民間活力導入あるいは受益者負担増等で対応可能な面があり、まとめるには相当な労力が必要になる。	素案全体が完成しているため、解決済み。	
2	総論賛成、各論反対が世の常であるため、各論をできるだけ表現しない方法も考えておくべきである。	素案全体が完成しているため、解決済み。	
3	庁舎・支所の持つコミュニティ機能、集客機能は今後コンパクトシティの核として重要であるが、いずれ支所の統合もあり得ることであり、判断基準を指標としてもつべきではないか。	現在、支所の統合は想定していない。今後5年毎の見直しにおいて検討する。	
4	霧島市をどのような「市」にしたいかの総論を明確にして、市民が納得できる(致し方なく納得してもらえる)将来像を打ち出すことが重要と考える。	霧島市公共建物管理計画(仮称)の「(1)計画策定の目的」に記載している。	P. 1
5	公共施設が有するコミュニティの核としての重要性の基準として、既に記載されている客観的指標のほか、主観的指標(地域における愛着度合、任されている団体のやる気、郷土の歴史自然文化的資産としての価値、限界集落における最後の砦など)も重要と考える。	地区計画において、建物の歴史的価値について記載した。 ((1) 今後推進する取り組み、1) 施設保有量の見直し・適正化(総量縮減)の下から4行目に記載。)	P. 7
6	グランド霧島市(合併直後の既存計画を積上げたものではなく、一つの市としてのグランドデザイン)の視点から、機能、位置付けの明確が必要ではないか。 また、将来的には支所の数も考え直す時期が来るのだろう。	(1) 今後推進する取り組み、1) 施設保有量の見直し・適正化(総量縮減)の、四角囲みで記載。	P. 7
7	利用人数や利用頻度という視点のほか、参画・支援する団体の関与度合いや力量も大切な基準と考える。	(1) 今後推進する取り組み、1) 施設保有量の見直し・適正化(総量縮減)の、四角囲みの※で記載。	P. 7
8	歴民館や郷土館を存続させることは難しいと考えるが、地域文化継承の観点から重要な価値を持っている可能性がある。 前述したとおり、利用人数や利用頻度によらず、存続させる力を持っている組織や団体に任せることも必要ではないか。	(1) 今後推進する取り組み、1) 施設保有量の見直し・適正化(総量縮減)の、四角囲みの※で記載。	P. 7

具体的な項目・表現に対する意見

	指摘箇所 【骨子案での頁】	内容	対応または考え方	該当箇所
1	P 【P17図表 列：中山間地域、行：教育】	中山間地域の実態に、小規模校の負の部分だけが書かれているような気がする。プラスの面もあっていいのではないか。	中山間地域の教育の一番下に、「〇山村留学や霧島市小規模校入学特別認可制度※（以下、特認校制度という。）を実施することにより、校区外の子どもを受け入れ、特色を生かした教育が実践されている。」を新たに記載。	P. 5
2	P (1)地区の特性に応じたマネジメントの推進 (2)ニーズの変化に対応した適切な公共施設サービスの提供 【P4. 2-2】	<p>厳しい財政状況や同規模の市町村とのスペース比較から、今後維持し続ける事が可能な施設は現状の40%程度という基本方針が出されている事を重く受け止め、</p> <p>①地区の特性や市民ニーズを踏まえ推進するという表現を使う場合は、前提条件を付けるとか、もう少し弱い表現とするべき。</p> <p>②地域の生活への影響の大きい施設については、地域特性まちづくりの方向性等を踏まえ、検討する。→そのような考え方も必要だが、あくまでも計画全体が主で、それを踏まえたまちづくりをするのが基本線ではあり、そのような表現にすべき。（双方向、同じ大きさの矢印にはならない）</p> <p>③施設の維持管理、更新にはコストがかかる事、そして、それが特定の人を対象にする意味合いが強ければ強い程、そのコストは利用する人＝受益者が負担するべきである事を理解してもらう必要がある。</p> <p>④徹底した無駄の排除、効率化、民間への委託等を強力に推進すべき。</p>	<p>①②…6ページの「2.公共建物管理に係る全体像」本文7行目、「その推進に際しては、地区特性や市民にニーズの変化に留意するほか、～」に変更。</p> <p>③…10ページの「3)施設運営の見直し(財源確保)」の本文1行目、「受益と負担の観点から使用料の適正化を図り、～」と記載。</p> <p>④…11ページ「4)LCCの縮減や平準化を着実に進める方策の検討(維持管理業務効率化)」の本文3行目、「維持管理業務の効率化に資する取組を～」と記載。</p>	P. 6～11

3	P 10年を計画期間とする実施計画を5年ごとに見直す。 【P2. 1-2 (3)】	最初の段階で短期的な目標(5年以内に廃止・統合する施設)を決めるべき。計画開始段階では、予測で計画せざるを得ない内容がある、結果的に検討が不十分、思いもよらない状況変化があるといったことが十分予想されるため、もっと短期間で見直すべき。逆にそういった事をしないと、スタート直後は具体的な動きが無く現状を長く引っ張る事に繋がる。また、目論見違いで計画通りに事が進まず頓挫する可能性が高い。	数値目標を記載。	P. 8
4	P 市の中心とそれぞれの拠点を公共交通等でネットワーク化する。 【P21. 3-4 (2) 3) ①】	高齢者(車での移動ができない方等)の方がはたして何回、市街地に用事があり行き来するのか。車社会の現代、ほとんどの方が公共交通機関を使うとは思えません。現在のシステムを維持できるかさえ疑問です。仮にネットワーク化を前提に計画を作り、それが実現できなかった場合、どうなるのでしょうか。 交通弱者をそれ以外の方が補うような、現在の公共交通システムを補完する何かを考えるべきではと考えます。	「3)相互連携の推進」本文3行目、「必要に応じて移動手段を検討することなどにより～」と記載。	P. 12
5	P 保有量の大きい5用途を中心として 【P6 3-1 (1)】	5用途が何を指しているのか、分からない。	「3. 用途別の公共建物管理の方向性」で個別に記載。	P. 14～
6	P 【P9 図表】	現状と課題が明確に表現されていない。 現状のみで課題がないもの、既に解決済みのもの、試行中のものが記載されている。 統一された内容にするべきではないか。	変更しない。	P. 14
7	P (2)市民文化系施設 【P10 3-2】	郷土館は、どの用途に包含されているのか。	(2)市民文化系施設に含む。	P. 15
8	P 過大規模校対策としての学区の見直しは実施されている。ほか 【P11 (3) 図表】	天降川小学校区の生徒が舞鶴中学校の前を通過して国分南中学校(指定の学校)に通っている。 また、現状のみの部分が多いので、課題を整理して記載するべきである。	市街地の「一部過大規模校への対応が求められており～天降川小が分離新設されている。」を削除。	P. 17

9	P 子どもの教育水準を重視し…、 子どもたちの教育水準の観点と 【P11. 3-2 (3)】	教育水準という言葉が使われると、小規模校の教育の 質や量は低いのではないかと考えられるので、「教育 環境」という言葉に修正した方がいいのではないか。	(3)学校教育施設、1)現状・課題の4行 目、「子どもの教育観水準」を「子どもの教 育環境」に変更。	P. 17
10	P 子どもの教育水準の維持、確保 の観点 【P11-12 (3) 図表】		図表 学校教育施設に係る現状・課題の、 中山間地域、一番下の「子どもの教育水 準」を「子どもの教育環境」に変更。	P. 17
11	P 【P12～13 (4)本文と図表】	重複した表現が見られる。	変更しない。	P. 18
12	P 廃止予定の施設の除却を推進す る。 【P14 (5) 図表 今後の取組方向】	除却という表現が適切か。	変更しない。	P. 22